

鯖街道の起点で「鯖、復活」 鯖から始まる小浜市のまちづくり



御子柴北斗¹⁾、畑中直樹¹⁾、樽谷宏和²⁾、青海忠久³⁾、横山芳博³⁾、宮台俊明³⁾、木下仁徳⁴⁾、右田孝宣⁵⁾

1) 小浜市役所、2) 小浜市漁業協同組合、3) 福井県立大学海洋資源生物学部、4) 福井県栽培漁業センター、5) 株式会社鯖や

背景1 鯖街道の起点・小浜

小浜市は、福井県の南西部である若狭地方のほぼ中央にあり、関西地方から見ると、京都の真北に位置する。
小浜市は古代より、都とのつながりにより発展してきた。中でも、かつて、サバが大量に漁獲され、そのサバが京都の鯖寿司文化の礎となったことから「鯖街道」の起点として知られており、「鯖」は小浜市の文化の象徴の一つとなっている。
また、小浜市には、大量に漁獲されたサバを美味しく食べるための鯖文化が発達している。



左より、サバを丸ごと串に刺して焼き上げた「浜焼き鯖」（左）、鯖と塩で漬けて約1年間熟成させた「へしこ」（中央）、へしこをさらに米と麺で発酵させて完成させる「なれずし」（右）

背景2 サバの漁獲量の減少

小浜市は、かつて、「若狭湾の底からサバが湧いてくる」と言われるほど漁獲量が盛んであり、1974年には、主にサバの巻き網漁を営んでいた田島巾着組合だけで3,580トンの水揚げがあったが、漁獲量が減少し、サバ漁の主力であった前述の田島巾着組合が解散したことから担い手も失い、2014年の漁獲量は1トンの激減している。



事業コンセプト

平成27年4月「御食国若狭と鯖街道」が日本遺産第1号に認定

小浜は鯖街道の起点として知られ、鯖文化が根付いている。鯖は小浜のまちや文化、歴史を語る上での重要なキーワード。

小浜＝新鮮な魚介類というイメージ

四季を通じて旬の多様な魚種が水揚げ。なかでも、知名度の高いマサバは、地域外からの需要が高い。

地域外にも広く知られる小浜の「鯖」のイメージをテコに、地域の活性化を図る

「鯖」を入りに

- ①小浜への誘客促進、②小浜のまちや文化、歴史に触れる、③小浜で日々水揚げされ、本当に美味しい「若狭もの」の知名度向上、④水産物の需要拡大⑤さらなる誘客へのループの形成へとつなげていく

鯖、復活プロジェクト

観光客をターゲットとして、鯖街道のストーリーとともに、刺身でも食べられる美味しい小浜の養殖サバを安定供給

平成28年度の試験概要



【試験1】

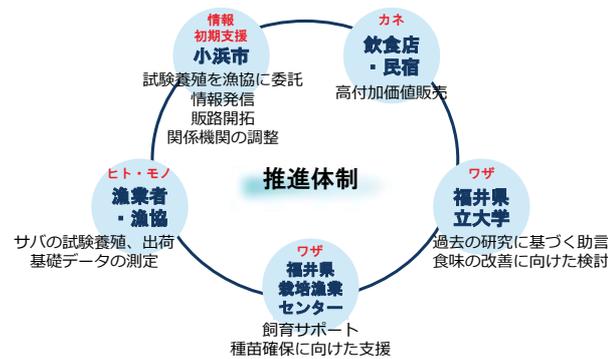
- 石川県で漁獲された約300gのピンサバ1,000尾を平成28年6月から10月末まで蓄養し、600g程度で活魚出荷。
- 市の観光施設に設置した大型活魚水槽で泳がせ、活け作りで提供。

【試験2】

- 平成28年6月に小浜の定置網で漁獲されたサバコ（約10g）約2,000尾を蓄養。
- どのような飼育をしたらどの程度生存するかを検討。

成果と課題

- 300g蓄養について、生存率は87%を確保。
- 脂の乗りすぎを避け、食味について一定の評価。大阪高島屋のフェアでも販売。
- 水温28℃を超えると餌食いが極端に低下したことから餌止めし、9月に水温が28℃を切って給餌を開始したところ、多少のへい死が発生。
- サバコ（10g種苗）の生存率や生育度の把握が難しく、適切な給餌が難しい。
- 事業拡大のためには、種苗の安定的な確保が必要。
- 市民の盛り上がりや鯖を切り口としたまちのPRの開始（鯖街道ウルトラマラソン、サバでラッピングしたバス「サバス」）
- 「鯖街道」という大きな遺産と「小浜の鯖」に対する世間や市民の関心の高さ（100回を超える新聞、雑誌、テレビ、ラジオでの紹介）



実際の鯖街道（80km）を一日で走破する「鯖街道ウルトラマラソン」で、実際に鯖を運ぶ市民有志



実際の鯖街道のルートの一つを運行する鯖のラッピングバス「サバス」

今後の展開

小浜市「鯖を愛するまち」宣言

- 小浜市は鯖街道の起点であり、全国のどこにも負けない鯖文化が根付いている。
- 平成29年3月3日、小浜市は、①小浜に根付く鯖を美味しく食べる文化を愛し、②減少する鯖の資源を守り、③鯖の魅力を伝えることに取り組む「鯖を愛するまち」であることを全国で初めて宣言。

クラウドファンディング × 漁業 = クラウド漁業

- 小浜では6月頃にサバコ（約10g）、秋に約200gのピンサバが揚がる。
- インターネットを通じて、不特定多数の個人から広く資金を募るという「クラウドファンディング」の特長を生かし、クラウドファンディングで調達した資金を使って、ほとんど市場価値が付かない小さなマサバを高値で買い付け、市場価値が付く大きくなるまで育てることで、社会全体で価値ある魚を創る取り組みを平成29年度から開始予定。
- これにより、漁業者の所得を上げ、養殖業者の所得を上げ、水産資源を守り、水産業で地方創生につなげることを目指す。

【謝辞】本取り組みを推進するに当たり、ご協力及びご助言をいただきました。小浜市漁業協同組合、福井県立大学、福井県栽培漁業センターをはじめとした関係者の皆様、心より感謝申し上げます。